

本校が目指す5年後の姿

① 学校の現状と課題

本校は羽後町唯一の高等学校であり、地域に根ざし、地域に支えられながら日々教育活動を実践している。令和元年度入学生から2年次以降、生活文化系、ビジネス系の2編成とし、家庭科目、商業科目に特化した教育課程としている。生活文化系では、調理・栄養・福祉・保育・被服製作に関する知識とスキルを体験的に身に付けるとともに、地域の方々との協働学習によりコミュニケーション能力等、社会人としての必要な基礎力を育成している。ビジネス系では、情報処理に関する知識やスキルを身に付けるとともに、社会人として必要なコミュニケーション能力の育成、ビジネスマナーの習得を図っている。また、羽後町、NPO、大学等の協力のもと、「羽後学」によるふるさと教育・地域連携学習を通して、地元理解を深め、地元で貢献できる人材の輩出に取り組んでいる。

生徒の学力については、一人一人に十分に寄り添いながら基礎・基本を身に付けさせる必要がある。同時に生徒の多様な進路希望を実現させるため、学力向上とともに、本校の使命である地域の次代を担う人材育成に努めている。

② 学校を取り巻く将来状況の予測

県南地域の児童、生徒数の減少は著しく、中でも湯沢雄勝地区においては令和7年3月の中学校卒業者数は400人(平成30年3月比-85人)という予測である。そのため令和2年度入学生から定員を70名としており、将来的にも2クラスを維持できるように、特色ある教育活動を充実していくことが求められている。

③ 目指す生徒像及び学校像

校訓「精進努力」……「地域に開かれ、地域に信頼される学校、小さくとも温もりのある学校として、心の教育とキャリア教育を充実させ、自己目標の達成と地域貢献に精進努力する生徒を育てる」

教育目標「21世紀をより善く生きる、心豊かで有為な人材の育成に努める」

目指す生徒像

- (1) 思いやりの心と柔らかな感性を身に付けた生徒
- (2) 規範意識を持ち、困難にも挫けず乗り越える生徒
- (3) ふるさとを愛し、ふるさとの発展を担える生徒
- (4) 生きる力とグローバルな視点を併せ持ち、社会に貢献できる生徒
- (5) 課題意識を持ち、自らの力で解決を目指す向上心のある生徒

④ 5年間を通しての具体的目標

(1) 進路指導の充実

- 1 地元就職の促進……就職希望者のうち80%以上の地元就職を目指す。
 - ・職場見学を実施し、地元にある優良企業の存在を認識させる。(1年)
 - ・インターンシップを実施し、地元企業の良さを再確認させ、働くことの意義や職業についての理解を深めさせる。(2年)
 - ・希望進路達成100%を目指すとともに、進学希望者に対しても、卒業後県内で就職することを視野に入れたキャリア教育を推進する。(3年)

2 多様な進路希望の実現……進路希望実現に向けた基礎学力の定着を図り、四年制大学や短期大学への複数名進学を目指す。

- ・学習支援サービスを活用することで、基礎基本の定着を図る。（１、２年）
- ・国際教養大学や慶應義塾大学の学生との交流や大学見学などを通して、自己の進路を見つめ直し、進路意識を深めさせる。（１、２年）
- ・希望進路達成１００％に向け、補習や面接指導の充実を図りながらキャリア教育を推進する。（３年）
- ・羽後町で実施する海外短期留学への参加や留学生との交流を通して、グローバルな視点で物事を考える力や多様な価値観を認める力を高めさせる。（全学年）

（２）部活動の活性化

- ・【運動部】中学校と連携した部活動を実践するとともに、外部コーチによる指導や協力等も得ながら全県大会優勝、全国大会出場を目指す。
- ・【文化部】外部コーチ等による地域の協力を得ながら、全県大会入賞を目指す。

（３）地域の小学校や中学校との連携

- ・ワクワク理科実験教室（小学５・６年生、中学１年生対象）を実施する。
- ・金融経済教育による小学校への出前講座を実施する。
- ・羽後中学校との連携による授業研修会を実施する。

（４）地域に貢献できるボランティア活動

- ・環境美化活動（全校生徒）
- ・森づくり植菌体験（全校生徒）
- ・薬物乱用防止街頭キャンペーン（ボランティア部）
- ・献血ボランティア（ボランティア部）
- ・社会福祉施設等での芸能披露（郷土芸能部）
- ・羽後町の事業への参加（生徒会、ボランティア部）

（５）ふるさと教育「羽後学」の実践

羽後町、ＮＰＯ、大学等の協力のもと、総合的な探究の時間で、ふるさと教育「羽後学」を実施し、地元の良さを再認識し、将来にわたるライフプランを考えさせ、地域の発展に貢献する姿勢と態度を育成する。また「羽後学」による地域との協働体験により、社会で必要なスキルを身に付けさせる。